



にしもり のぶお 議員
西森 信夫

みんなの笑顔で
いい年にしたいね

問 道路整備の現状と今後の対策は

町長 各整備計画に基づき対処する

本町の道路整備の経過と今後の対策は

問 ライフラインの一つに道路問題がある。

モータリゼーションの発達により利便性が良くなった反面、整備改良、補修など多額の費用と時間がかかる。号線整備はどのような構想で行われてきたか。

答 地元関係者や農業団体などからの要望を受け実施してきており、整備に当たっては町費負担割合の低い道営事業や各種補助事業などにより進めてきた。

事業実施に当たっては、国や北海道が制定する農道整備基準に基

づき、農家戸数、受益面積、生産施設の有無などが採択の要件となる。

ていきたい。また市街地区域の多くの町道は整備後20年以上経過している。通常の舗装、補修のパッチングだけでは維持管理が難しく、修繕順位を定めた舗装修繕計画により、来年度以降本格的に修繕していくことにしている。

問 市街地道路整備の現状と今後の考えは。

置き雪の除雪実施へ

答 各種補助事業などにより早くから整備され、実延長49kmのうち約45kmが舗装化されている。未整備の町道については、町内会の意向も聞きながら適宜整備し

はしないが、ひと冬に2、3回の積雪がある。その降雪時の除雪に伴う商店や個人宅の玄関先の除雪、排雪が問題となってくる。高齢化と

人手不足で、対応策として出入口1か所の除雪はできないか。

答 除雪に伴い起きる住宅や車庫などの置き雪は、現在沿線住民の方々に対処してもらっているが、高齢者の方々にとっては処理することが難しくなってきたり、その対策を町内会からも要望が出されている。そのため、今年度試行期間として80歳以上の単身世帯と夫婦世帯のうち、希望する世帯を対象に町内事業者の協力を得て置き雪

除雪を実施することにした。

問 農業機械の大型化に伴い将来の農道整備、補修、改修の考えは。

答 昭和50年代整備の農道劣化進行度合いが著しく早急な改修が必要となる。これら路線を優先して事業化に取り組み、大型化した機械の通行にも対応できる工法などを検討したい。未整備農道は、退避場設置など地域の声を聞き進めたい。



整備が待たれる砂利道



改良舗装された町道



西森議員の一般質問を視聴できます